MJOTAR

日本語について思うこと

国際交流基金ブダペスト日本文化センター所長 分田 宗広

最近会社の若い人からメールをもらうと、冒頭に「お疲れ様です。」とあり、それから本文が始まります。これはメールだけでなく会社内で電話を掛けても、若い人からはまず「お疲れ様です。」と言われてしまいます。私などは非常に奇異な印象を受けるので、当地の日本企業で働く友人達に聞いたところ、これはどうも我が社だけの現象ではないことが分かりました。確かに事務的な内容を伝えることを目的にしたメールで、冒頭に季節の挨拶はそぐわないでしょうし、かといっていきなり本題では味気ないし、悩みの多いところかも知れません。このような悩みを解消するために、マニュアル化されたような言葉が流布するのでしょう。



これと同じようなマニュアル化された、おかしな日本語表現は町の中に溢れています。「こちらコーヒーになります。」「千円からお預かりします。」などは、普通に正しく言っても特に難しい表現ではないのに、なぜこんな言い方が流行るのかと皆さんも不思議にお感じのことと思います。難しい表現といえば敬語ですが、敬語の使い方を簡単にするためか、「~していただいて宜しいでしょうか。」という表現も耳障りですね。例えば「ホームページを立ち上げる。」のように、初めは奇妙に感じていても、多くの人が使い出すと感覚が麻痺し、変とは思わなくなってしまったものもあります。

日本語教師は、日本語を易しく効果的に教える方法に優れているだけではなくて、自分の内の日本語の感覚を絶えず磨いて、このような麻痺を起こさないように注意する必要があるのではないでしょうか。普通の外国人が日本語を話したり、書いたりするのに全く間違いのない日本語を期待するのは無理でしょうが、教える方は変な日本語を教える訳にはいかないからです。また文化に関する情報についても、ステレオタイプの情報だけではなく、社会や歴史について自分なりの解釈や意見を持っていて欲しいと思います。なぜなら学習者にとって、日本語教師は、彼らの日本についての興味を刺激し、好奇心を満たしてくれる貴重な存在なのですから。

こう考えると日本語教育とは大変な仕事であり、教師は文化交流の最前線で戦う知的な戦士と言えるかも知れません。期待されることが大きいだけに、日本においても外国においてもその地位や役割がもっと見直されなくてはなりません。互いの能力を高め、日本語教師に対する周囲の認識、評価も高める。これもMJOTの大事な仕事なのでしょう。

一緒に、楽しく切磋琢磨

運営委員 セメレイ・マルトン

この前、立派な剣道の道場を見に行ったら、壁に大きな文字で「切磋琢磨」と書いてありました。多くの人がよく集まって、一緒に練習して成長する場所です。辛い汗をかいても、笑いながら伸びていく場所です。日本語教室も切磋琢磨できる場所にしたいと思って、上記のタイトルにしました。

日本語教育に携わって長年活躍していらっしゃる先生方の前で 恥ずかしながら自己紹介をさせていただきます。セメレイ・マル



トンと申します。カーロリ大学を卒業してからフンファルビ・ヤーノシュ貿易経済専門高校 と法門仏教大学に勤めており、日本語教師をしております。高校も大学も今年で3年目です が、以下ビギナー教師の経験について短く書かせていただきたいと思います。

最初のうちは板書を的確に行えるか、目配りができているかなど不安を抱きなが授業の準備をしていましたが、教室で過ごす時間が経つにつれて学生とのコミュニケーションが何よりも大事だと感じるようになりました。聞いても無言で身振りさえしようとしない子をはじめ、授業中居眠りしたり、消しピンや手紙交換、そして数人でポーカーをしたりする学生もいて困っていました。想像上のクラスと現実は相当異なり、仲良くするしかありませんでした。結局、あの生き生きした高校生達が教えてくれたのは教育現場には実際の子供がいて、そのためにこそ、問題を抱えた子やぼんやりした子もいれば、活発で元気あふれる子もいることです。教育は人と人の接触に基づいている活動であり、教師も思い切って参加しないと容易に前進できないとその頃分かりました。

ただし、外国語学習の要となっている関心そのものが薄いほど教師の苦労が増える一方で、 学生の興味を高めることによって勉強への動機もある程度自然に生まれることも体験できました。知らず知らずのうちに自分が教え方について持っていたイメージも変わってきました。試行錯誤を重ねて大学の先生方に紹介していただいた教授方法を少しずつ使ってみて、フィードバックを基に進んでいました。授業を支える手立てとしてクラスによってはトータル・フィジカル・リスポンズやドラマ教育など色々なメソッドを応用してみて、反応が特に良かった方法は今度もまた使うことにしました。いつも目指していたのはクラス全員の注意をつかむことであり、できれば皆が一緒に頑張ってくれることです。そして、正直に言えばこういう試しについて過去形で書く必要もありません。子供達がお互いを大切にしながら楽しく日本語を身に付けられるように実験的な日本語教室はこれからも続けようと思います。経験を積まれた方々、日本語教師会の皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。











ELTE 大学文学部日本学科 官崎玲子

ハンガリー日本語教師会の皆さん、こんにちは。2008年の9月から1年間、エルテ大学の日本学科で教えていました宮﨑玲子です。ハンガリーにはとても深い縁を感じるので、ここに来ることができて本当に幸せを感じています。

と言うのも、もともと大阪外国語大学(現、大阪大学外国語学部)でハンガリー語を専攻していたのですが、ハンガリー語を専攻することになったのもちょっとした偶然でした(説明すると長くなるので、ここでは省略)。でも、親切な先生方や愉快な同期に恵まれ、ハンガリーに旅行する機会もあり、すっかりハンガリーが大好きになりました。卒業後は東南アジアのタイで教えていたりもしたので、すっかりハンガリー(ヨーロッパ)とは縁遠くなってしまったと感じていたのですが、外大の先生からの紹介でエルテ大学で教えることになりました。こういうことってあるんだなぁ・・と実感しております。

エルテ大学では主に、学部 2,3 年生の会話、作文の授業や、修士課程の教授法や言語学の授業などを担当させていただきました。

エルテの学生は、本当に熱心で上達も速く、与えた分以上のことを学んでいくので、教えるこちらの方も中途半端なことはできないと身が引き締まりました。実際、タイで教えていたときは、タイには数多くの日本企業が進出していて、主専攻で日本語を学んでさえいれば日本企業への就職ができ、それなりの給料がもらえるという図式ができあがっていました。しかし、日本から遠く離れたハンガリーでは、そうはいきません。それなのに、



書道クラブの様子

純粋な趣味として熱心に日本語を学んでいる学生がいる ことに心底感心させられました。このモチベーションの高 さは、本当に私の方が教えてもらいたいぐらいです。

また、日本文化への興味も高く、特に若い学生ほど日本 のポップカルチャーに詳しいことにも驚きました。それだ けではなく、総じて日本の伝統文化への興味も高いことも 嬉しく思います。後期には学生の呼び掛けにより

書道クラブの活動を行っていたのですが、多くの学生が熱

心に参加してくれ、上達の早さにも目を見張りました。

9月からは国際交流基金のブダペスト日本文化センターでお仕事をさせていただくことになっています。教師会の先生方の中でもたくさんの方々にご協力いただいている教材製作ですが、主にそのお手伝いをさせていただきます。まだまだ把握していない点も多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、どうぞ皆様今後ともよろしくお願いいたします。そして、センターにお越しの際は、どうぞお声をかけてくださいませ。



書道クラブの学生と

Tanuljunk idegen nyelveket!

Vörös Erika

オルケーニ・イシュトヴァーンというハンガリー人作家が書いた短編小説の題名を借り、自己紹介を始めます。と言うのは外国語が人生の中で極めて重要な役割を果たすと思うからです。言語は人間関係に不可欠なもので、人間と人間を結ぶ橋のように考えられます。それだけではなく、言語は思想や文化などある民族の全世界を反映するので、別世界への扉でもあると言えるでしょう。

こう考えると、外国語学習は未知の所への素晴らしい旅のような ものではないでしょうか。異文化に接触することによって新しい見



解などと出会い、様々なことに印象づけられ、自分も変わっていきます。そのため、外国語学習の「旅」は人格形成の道でもあり、豊かな人生への道ともいえるでしょう。「使える言語の数だけ人生がある」というハンガリーの諺を皆様もよくご存知だと思います。私もここ数年、これを肌で感じました。

2008 年に法門仏教大学を卒業しましたヴルシュ・エリカと申します。家庭教師として 2003 年から日本語と中国語を教えたり、翻訳をしたりしておりますが、真剣に教師になり たいと思ったのは 2005 年に奈良教育大学に留学することになった時のことです。それまで 外国語学習一筋に生きた私は知識を伝えることによってこそ知識が数倍になると思い始め、他の人もこの興味深い世界に導くことができたら、これまでの努力は水の泡にならないと 感じました。大学時代に 2 回も教育大学に留学することになりましたから、なんとなく教育界と縁があるようにも感じました。それに、教えてくださった先生方の援助がなかったら、私の人生はどうなっただろうと考えると、教師は人に直接的影響を与える大きな責任があることを悟り、先生方に心から感謝しております。いつか私も誰かの人生にいい影響を与えることができればいいのにと常に思っております。しかし、それまではまだまだ先が長いと思います。どうしてかというと、先生になるのは決して簡単な課題ではないと度々肌で感じるからです。教師たる者は常に寛大で順応性のある心を持たなければなりませんが、このためにこそ教えることは生涯学習の貴重な機会にもなります。他の先生方にだけではなく、生徒にも毎度勉強できることではないでしょうか。

仏教の世界で「ご方便」という言葉が使われています。つまり、悟りに達した仏様は各人の心をよんで、人それぞれに最も適切で、受け入れやすい方法を選び衆生を教えるということです。悟りには程遠い私にもこのような「方便」があればいいのにと時々思いますが、最も大切なのはなんといっても生徒に自信を持たせること、そして生徒の興味を不断に維持することだと思います。私はまだ経験が浅く、手段が足りないかもしれませんが、生徒に外国語を勉強しなければならない情報というよりも、むしろ楽しく、自然に活かせるもの、つまり日常生活の一環として認めてもらえるように日本語を教えたいと思います。

私にとってこれまでで一番貴重な経験になったのは今年の7月に開催された「日本語キャンプ」で3級対策クラスを担当させていただいたことです。自分の未熟さを自覚しつつ、キャンプ運営の皆さんと教師の皆さんの献身的な努力に感動させられ、これからも皆さんを手本にして更に楽しく素敵な授業が進められるように頑張って行きたいと思いました。今後も教師会の皆様から様々なアドバイスがいただければ幸いです。

日本語キャンプに参加して MJOT特別会員 大杉千恵子

私が初めてハンガリーを訪れたのは 1993 年夏でした。そ れまでアジアの発展途上国と日本やアメリカのいわゆる先 進国しか知らなかった私にとって、ハンガリーは不思議な魅 力を持つ型破りな国でした。なんとも言いようのない、切な いような、甘い気持ちを起こさせるかと思えば、一方あまり にも堂々としていて、猛々しく人を威嚇するような一面もあ ります。相反するいくつもの顔を持ったハンガリーに魅了さ れて、その後も何度か訪れ、仕事でフィリピンに居るときか らもハンガリー語を勉強したりしていました。



1997 年初めから3年間はブダペストでの仕事につくことが出来ました。任期が終わった あとも、何とかハンガリーに住みたいといろいろ手を尽くしましたが、結局うまく行かず、 2003 年からはニュージーランドに住んでいます。ハンガリーとの出会いの前に、ニュージ ーランドで日本語を教えていたこともあったのです。

1年半ほど前から、車で小さなキャラバンを引っ張って、移動すし店をしています。それ を見込まれて、今回協力を依頼され、今年7月に初めて開催された MJOT 主催の日本語キャ ンプの文化プログラムのひとつとして、『寿司』作りのお手伝いをさせていただきました。

私がブダペストに住んでいた頃、よく訪ねて来てくれていた父が昨年 12 月に亡くなり、 思い出の沢山あるこの街にすぐにでも来たかったのですが、ハンガリーの冬の厳しさに恐 れをなし、夏になるのを待って、今回ハンガリーに来ることにしました。日本語キャンプ の日程にも合わせて・・・。勝手の分からない場所でのお寿司作りはちょっと不安でした が、その不安はキャンプ実行委員や学生ボランティアや手伝いの人たちがすべて解決して くれました。それまで、出来ないと思っていたことが、全部うまくいきました。参加者の 人たちも皆上手に自分たちで巻いたお寿司を、おいしいと言って食べてくれました。

久しぶりのハンガリーは日本語教育事情もかなり様変わりしていましたが、情熱を持っ て熱心に日本語を勉強する学生の意気込みは以前と変わらず感動的でした。『私は日本の文 化が好きです!』と言って、嬉々として日本語を勉強している姿はとても懐かしく感じま した。お習字をしたり、着物を着せてもらったり、それらもとても楽しそうでした。

ハンガリーでもお寿司ができたと言う自信で、ニュージーランドへの帰路に立ち寄った 日本でも私のお寿司を家族に披露する事が出来ました。前も頼まれたのですが、そのとき は出来ないと思い込んでいて、断っていたのです。まだまだ新米のお『すし屋』ですので、 今回のことも小さな自信につながり、これからの修行の糧にして行きたいと思います。大 変楽しい経験をありがとうございました。

ニュージランドにて



大杉さん、本当にありがとうございました。また是非ご協力下さい◎!(09 年キャンプ実行委員会より)

MJOT日本語キャンプ実行委員会より



7月20日~24日までの五日間、法門仏教大学を会場に MJOT 事業として初の「日本語キャンプ」を実施しました。参加者は高校生から六十代の方まで年齢層も幅広く、またスペイン人の方も参加して、ちょっとだけ国際的日本語キャンプとなりました。キャンプ期間中は Bp.在住の日本の方々、ハンガリー人のボランティアの方もお手伝い下さり、大成功に終わることが出来ました。参加者対象に行ったアンケートの集計結果は MJOT の ML00515 をご覧下さい。

来年の夏も行います。2010年春にキャンプ実行委員、日本語講師、日本文化指導講師を募りますので、宜しくお願いします。



MJOT スピコン実行委員会より

10月9日(金)スピコン原稿の〆切です! 地方からの参加者には交通費が支給されますので、地方で日本語を教えていらっしゃる日本語教師の皆さん、教え子さんの出場を目指して、ご指導お願いします。

その他日本語教育関係の情報等

1) 日本語能力試験

来年から日本語能力試験が変わります。 下記にガイドブックと問題例が載っていま すので、ご参照下さい。

http://www.jlpt.jp/j/about/new-jlpt.html

2) 第14回欧州日本語教育シンポジウム

日時:2009年9月3日(木)~5日(土)

会場:ドイツベルリン自由大学

詳細はhttp://www.eaje.eu/

3) 第10回言語パレード

日時: 2009年9月9日(水)~13日(日)

会場: HUNGEXPO

Budapesti Vásárközpont B csarnok

1101 Budapest, Albertirsai út 10

詳細は http://www.nyelvparade.hu/

4) 第17回日本語スピーチコンテスト

日時:2009年11月8日(日)

会場: ELTE 大学法学部イベントホール

1053 Budapest, Egyetem tér 1-3.

jpn/kobun/090811supikon j.htm

詳細は <u>http://www.hu.emb-japan.go.jp/</u>

MJOT会報 編集部より

「会報 16 号」は 2009 年 11 月に発行予定です。会員の皆さんの声を受け付けています。担当されている授業の様子や課外活動等を写真付きで編集部までお送り下さい。



MJOT 会報 15 号

発行:2009年8月

編集:後藤史与

発行人:ハンガリー日本語教師会

新学期も頑張りましょう!